短歌全国大会入選100首記念

盆栽

金子公宥

特定非営利活動法人 みんなのスポーツ協会
企画・編集　藤田英和

（註）入選101首の内訳

特選３首、秀作７首、佳作11首、入選80首

歌集収録

「ねこの昼寝」21首、「人口知能」25首、「盆歳」55首

令和３年５月現在

謝辞

本歌集の作者・金子は、岸和田市八木地区公民館短歌教室の鈴木きぬ子先生、ならびにＮＨＫ学園短歌講師の方々に短歌の手ほどきを受けました。本歌集の企画・編集は藤田英和氏（ＮＰＯ法人みんなのスポーツ協会初代代表）の労によるものであり、また同協会の池島栄治郎氏にはホームページ作成のご支援を頂きました。各位のご好意に深謝の意を表します。

金子公宥

はじめに

このたび私たちＮＰＯ法人の顧問である金子公宥先生は、ご趣味の短歌を「全国短歌大会」に投稿されてきましたが，この度その入選歌数（特選，秀作などを含む）が100首を突破いたしました。また令和二年秋の叙勲では瑞宝中綬章を受章されましたので，これらを祝して第三歌集を「盆栽」と題して上梓することと致しました。

先生の短歌は「分かりやすく面白い」との定評があります。ご高覧頂けたら幸いです。

令和三年五月吉日

特定非営利法人　みんなのスポーツ協会

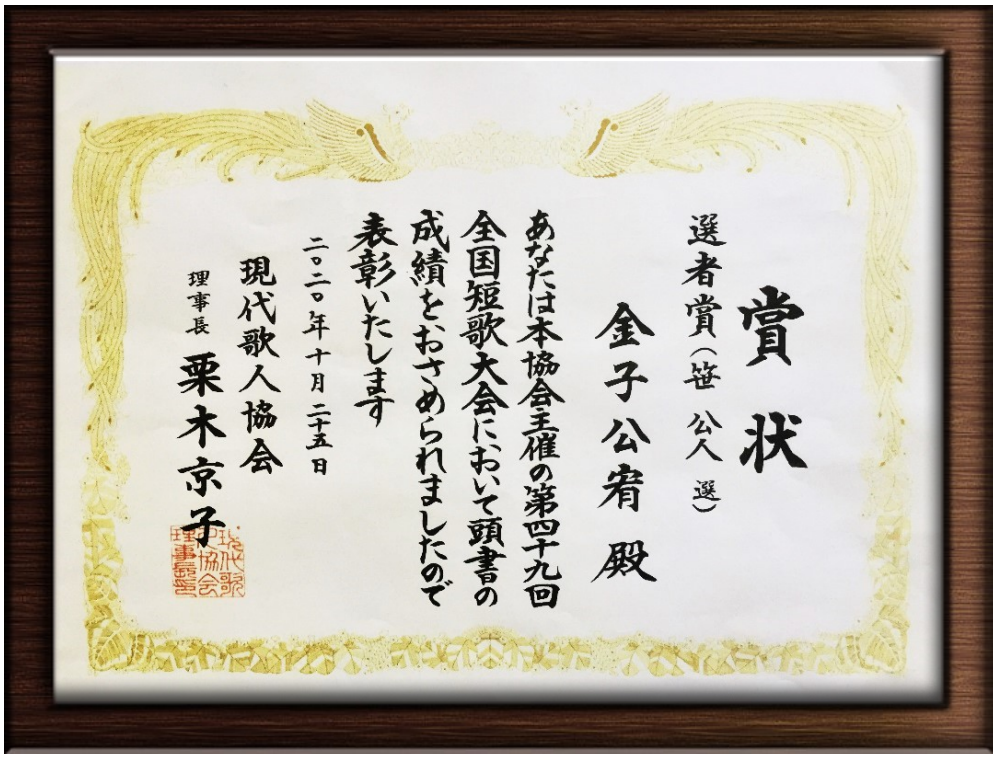
藤田英和

CC BY-SA

CC BY-NC-ND

第四十九回全国短歌大会

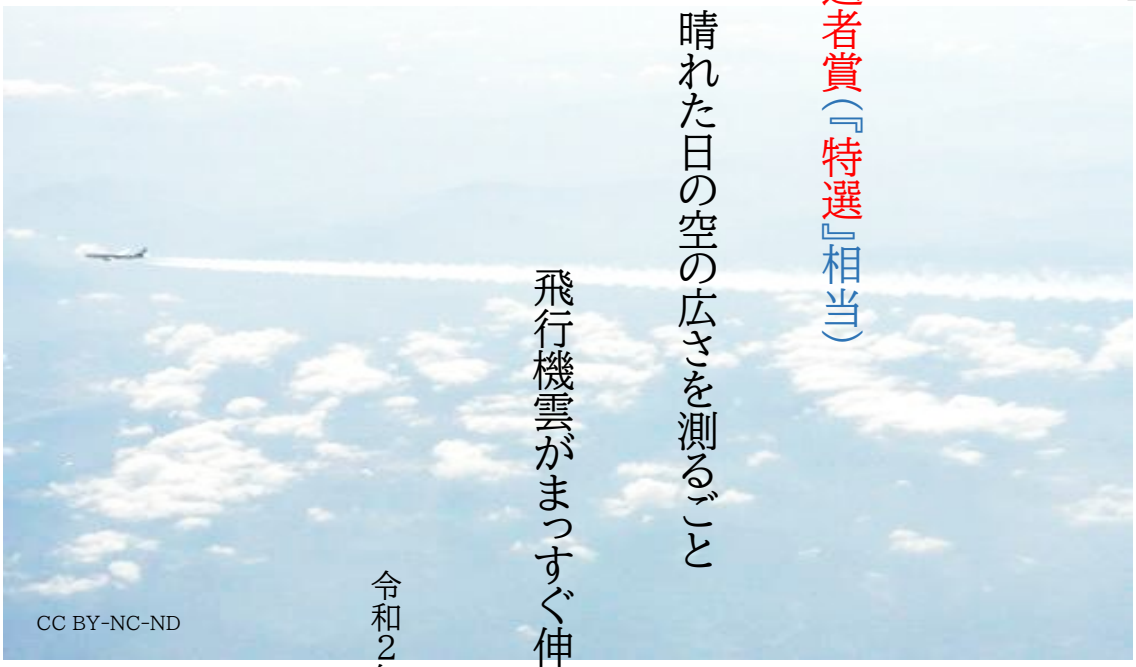
主催　現代歌人協会
後援　朝日新聞社



選者賞（『特選』相当）

晴れた日の空の広さを測るごと
飛行機雲がまっすぐ伸びる

令和2年8月



CC BY-NC-ND

笹　公人　選評

読んでいて清々しくなる歌である。飛行機雲が空の広さを測るためのものだとしたら、かなりロマンチックだ。まるで「空の伊能忠敬」である。作者は、そんな空想をしてしまうくらい、雲一つない大空に魅了されたのだろう。

第七回全国短歌誌上大会　共催　ＮＨＫ学園　日本歌人クラブ

賞状

秀作

盆栽の松の枝ぶり堂々と歌舞伎役者の見得きるごとし

金子　公宥　様

ＮＨＫ学園生涯学習フェスティバル　第７回誌上短歌大会

田中成彦選

あなたの作品はＮＨＫ学園
第７回誌上短歌大会において
頭書の成績を収められましたので
これを賞します

令和二年八月五日

ＮＨＫ学園 理事長　浜田泰人

（註一）短歌大会の選考

例えばNHK学園の場合、全作品の名前を伏せて印刷し、全選者がそれぞれ入賞入選作品を選び、大賞・特別賞などは重複を考慮して大会事務局が関与することがある。

第二回河野裕子賞(全国)短歌大会　主催　産経新聞

賞状

入選　俳　万智　選

金子公宥　殿

あなたが産経新聞社主催　京都女子大学共催「没後十年　第九回～家族を歌う～河野裕子短歌賞」家族の歌・愛の歌部門に投稿された作品は家族や大切な人への思い溢れる優れた歌と認められましたのでこれを賞します

令和二年十一月十六日

産経新聞社

入選（『佳作』相当）

俳　万智　選

きっとまた妻は言うだろう食卓で

新聞読むなと退院しくれば

令和2年11月

目　次

第一部（入選作）

植物の心 …… 8
ふる里の香り …… 10
近隣風景 …… 12
晩年を生きる …… 16
人類と社会 …… 20
時代を生きる …… 22

第二部（再録・入選作）

人類・社会 …… 27
戦中・戦後を生きる …… 27
散歩道 …… 28
自然と風景 …… 29
終の住処 …… 30
子供らよ …… 31
映像にみる …… 32

第三部（自選短歌集）

日常 …… 34
若き日 …… 34
老いる …… 35
想い出・映像 …… 35
ネコジャラシ …… 36
世の中・時代 …… 37
スポーツ・研究 …… 38

第四部（～短歌で綴る～ 人生いろいろ）

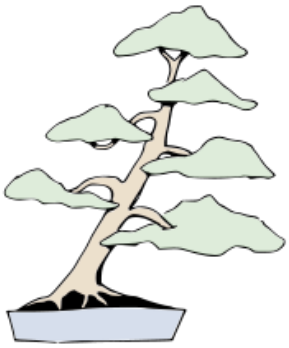
自分史「わたしの戦後70年」 …… 41
金子のんき節 …… 44

CC BY-SA

第一部

『盆栽』入選作

「ねこの昼寝」「人工知能（ＡＩ）」の入選作品を除く



CC BY-SA

植物の心

盆栽の松の枝振り堂々と
歌舞伎役者の見栄きるごとし

秀作　令和2年８月（ＮＨＫ・日本歌人クラブ）

植物に心はありやと問う子供
答えに窮するラジオの先生

佳作　令和1年8月（ＮＨＫ　武蔵野）

小春日の野原を歩くわが指に
触れるススキのさらさらとして

入選　令和1年8月（ＮＨＫ　武蔵野）

（註二）全国短歌大会主催団体（カッコ内に略記）

ＮＨＫ学園、日本歌人クラブ、現代歌人協会、子規顕彰記念博物館、河野裕子短歌賞（産経新聞社）、角川文化振興財団

なお、ＮＨＫ学園の大会には本部主催の全国大会の他に伊香保市・鎌倉市などの主催する大会があるが、いずれも全国大会に匹敵する大きな大会のため、河野裕子短歌賞と共に「全国大会」と見なした。

CC BY-SA

CC BY-NC-ND

道端のカラスノエンドウ鞘黒く
種をはじきて反り返りたり

入選　令和2年3月（ＮＨＫ　誌上）

ベルリンの壁の跡には桜だと
平和主義者の友は語りぬ

秀作　令和2年8月（ＮＨＫ・日本歌人クラブ）

わが窓の眼下にひろがる田畑（でんぱた）に
種蒔く農夫の手つきあざやか

入選　令和2年11月（ＮＨＫ誌上）

ふる里の香り

水を買う時代が来るとは思わざり
西瓜冷やしし古里の井戸

入選　平成31年2月（ＮＨＫ本部）

ふる里の天城の山の名物は
ワサビの香りと浄蓮の滝

入選　令和1年5月（ＮＨＫ鎌倉市）

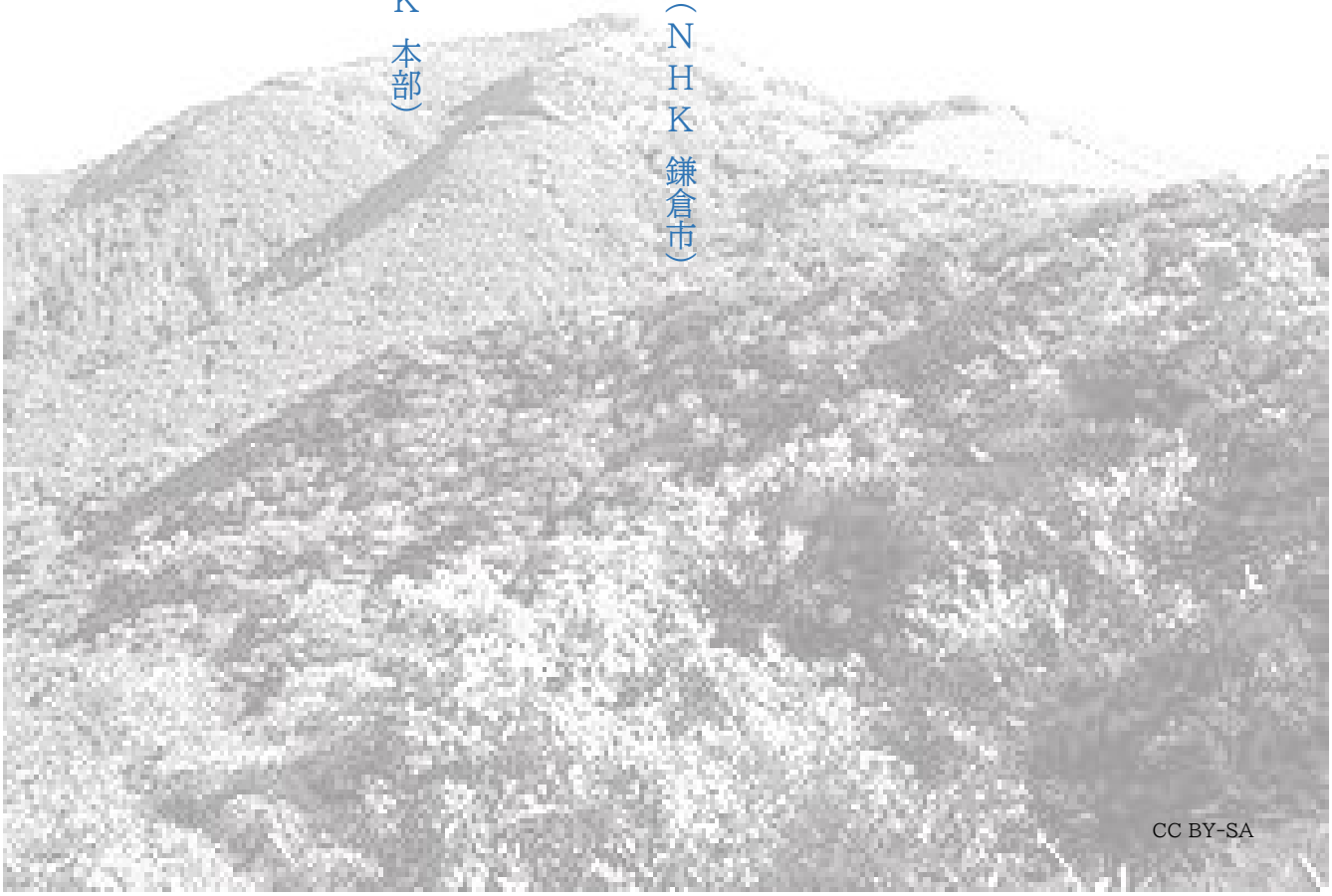
銀杏を拾って干して煎りたれば
遠きふる里の香りがしたり

入選　令和2年1月（ＮＨＫ本部）

CC BY-SA

旋回するわがジェット機の窓外に
銀河の東京傾きて見ゆ

佳作　令和2年1月（ＮＨＫ本部）



CC BY-SA

田植えする大勢の人に追われつつ

代かき(しろ)をせし古里の田園(たんぼ)

入選　令和2年1月（ＮＨＫ　本部）

ふるさとの道路はもっと広かった

地球がいつしか縮んだのかな

佳作　令和2年3月（ＮＨＫ　誌上）

どこの國?日本と分かるヒントなり

電信柱と電線の景

入選　令和2年11月（ＮＨＫ誌上）

農業に転じた友の送り来る

トマトとナスにほのかな土の香

「入選」相当　令和3年3月（角川全国短歌賞）

CC BY

近隣風景

蒼天に点となりたるジェット機の
飛行機雲が瀬戸内わたる

入選　平成31年2月（子規顕彰）

いつもなら空缶つぶす槌（つち）の音
今日は休みか冬の雨降る

入選　令和1年5月（ＮＨＫ　鎌倉市）

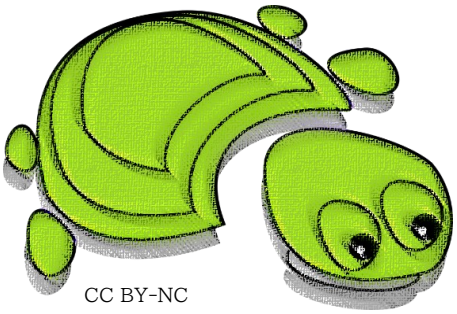
木枯らしに吹き上げられしポリ袋
どこへ行くのか寒くはないか

佳作　令和1年6月（ＮＨＫ　伊香保）

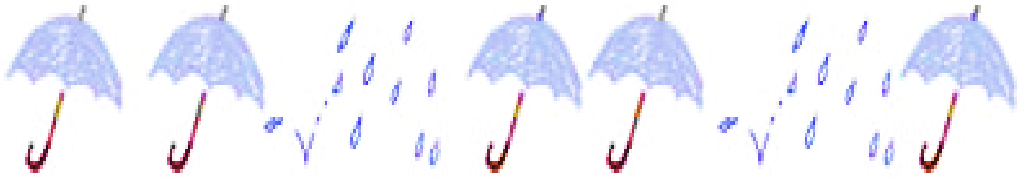
マンションの前の畑(はたす)鋤く老人の
野良着と地下足袋ピッタリ似合う
入選　令和1年8月（ＮＨＫ武蔵野）

田の間(あい)を流れる堰(せき)の草むらに
誰が捨てたか子亀一匹
入選　令和1年8月（ＮＨＫ　武蔵野）

夏空をさして伸びゆくサルスベリ
幹がひかるよ白雨(はくう)のあとに
入選　令和2年1月（ＮＨＫ　本部）



夢に現れる小さな亀は、特にお金の出入りを象徴すると言われています。小さな亀を逃がしてしまう夢は金銭を失う暗示。逆に捕まえる夢は金銭を得る暗示らしいですが、無暗に亀を捨てないでほしいですね。



CC BY-SA

大空にさえずる声を残しつつ

急降下する落雲雀（おちひばり）かな

入選　令和２年６月（ＮＨＫ　伊香保）

雨上がり今宵の月はくきやかに

生駒の嶺をきわ立たせており

入選　令和２年１月（ＮＨＫ本部）

コロナ禍でシャッターおろした商店街

令和二年のゴーストタウン

奨励賞（『入選』相当）　令和２年９月（日本歌人クラブ）

夜釣りする岸壁に立つ釣り人の
ヘッドライトに光る太刀魚

入選　令和２年３月全国大会（ＮＨＫ武蔵野）

この頃は雨滴のサイズが大きいと
思えるのだが本当はどうか

秀作　令和２年３月全国大会（ＮＨＫ武蔵野）

自動車の急ブレーキを聞くような
春一番がほこり巻き上げ

最終選考候補（「入選」相当）　令和３年３月（角川全国短歌賞）

晩年を生きる

今日もまた人口知能のパソコンに
多くを尋ね一日（ひとひ）を終える

入選　令和1年5月（ＮＨＫ　鎌倉市）

まなぶたを閉じて一日（ひとひ）を振り返る
何もなかった特別なことは

入選　令和1年6月（ＮＨＫ　伊香保）

願っても叶わぬ事は多けれど
願うことから事は始まる

入選　令和2年6月（ＮＨＫ　伊香保）

CC BY

難聴のわれに頼りの右耳が

あちこち探す人の呼び声

入選　令和2年6月（ＮＨＫ　伊香保）

晴れた日の空の広さを測るごと

飛行機雲がまっすぐ伸びる

選者賞（『特選』相当）　令和2年8月（現代歌人協会）

八十路（やそじ）こえそれでもわれは透明の
アクセル踏んで未来を生きる

入選　令和2年9月（日本歌人クラブ）

妻の癌「説明十日後」と医師は言う
待てば十日の日数（ひかず）の長し

入選　令和1年7月（河野裕子賞）

きっとまた妻は言うだろう
食卓で新聞読むなと退院しくれば

入選　令和2年11月（河野裕子賞）

CC BY-SA

註：八十路（やそじ）＝８０歳「広辞苑」。八十歳代（80～89 歳）とも使われる。

短歌詠む日々の楽しさ教えられ
全てを忘れ時の過ぎゆく

入選　令和２年11月（ＮＨＫ誌上）

きっぱりと「前」の不快を忘れ去り
これから先の「前」見て生きる

入選　令和２年11月（ＮＨＫ誌上）

濠端の苔むす土に顔を出す
かよわきタンポポ老いを励ます

最終選考候補（「入選」相当）　令和３年３月（角川全国短歌賞）

蒲公英（たんぽぽ）：綿毛の花言葉は『別離』と言われていますが、一息で綿毛を吹き切れば恋心が叶うらしい？『幸せ』という花言葉もあるそうです。

人類と社会

高天原（たかまがはら）に始まりたるや天下り
神代の伝統いまに続けり
佳作　平成31年2月（子規顕彰）

ベルリンの壁が払われ三十年
新たに築くメキシコの壁
佳作　令和1年10月（現代歌人協会）

温暖化まるごと地球を揺さぶるは
可愛い名前のエルニーニョ
入選　令和1年6月（ＮＨＫ　伊香保）

CC BY-SA-NC

留学のケンタッキー大学医学部の
夜半の掃除は黒人ばかり
入選　令和2年1月（ＮＨＫ　本部）

「人類の肺」と言われるアマゾンの
ジャングルありて我らは生きてる
入選　令和2年6月（ＮＨＫ　伊香保）

新型のコロナウイルス広がりて
クルージング船は孤島となりぬ

入選　令和2年6月（ＮＨＫ　伊香保）

モンゴルの国技のような大相撲
がんばれ日本の力士たちよ

入選　令和2年11月（ＮＨＫ誌上）

時は過ぎ時代は令和に変われども
桜は咲きぬ変わらず咲きぬ

入選　令和2年8月（ＮＨＫ・日本歌人クラブ）

黒焦げのバスの臭いが残りたる
エルサレムにて迎える朝（あした）

佳作　令和3年1月（ＮＨＫ本部）

沈みゆくベネチアの名所サンマルコ
広場に浮かぶビール瓶光る

秀作　令和2年3月全国大会（ＮＨＫ武蔵野）

時代を生きる

「火の鳥」の続きが小説になるという
手塚治虫は今も不死鳥

入選　令和1年8月（日本歌人クラブ）

人生の最大の謎は女性だと
ホーキング博士が語ったそうな

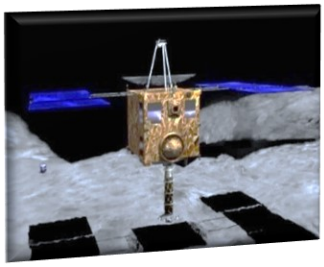
入選　令和2年1月（ＮＨＫ　本部）

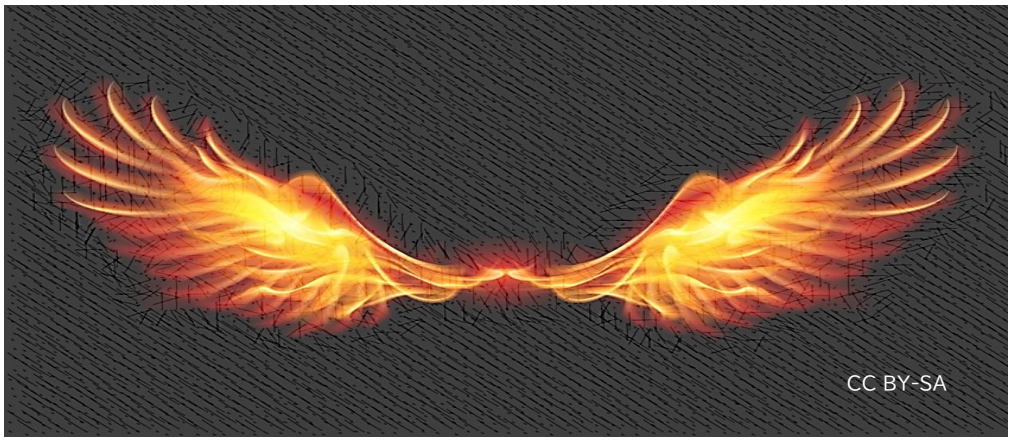
関空の闇夜の窓外見おろせば
宝石箱の神戸が傾ぐ（かし）

入選　令和2年3月（ＮＨＫ　誌上）

リュウグウの岩を持ち来るハヤブサの
宇宙の謎解き令和につづく

入選　令和2年3月（ＮＨＫ　誌上）





「嘘だろう」「本当なんだ」と会話する
久しき友に友の人生
佳作　令和2年11月（ＮＨＫ誌上）

入学の最初の二ヶ月職探し
学問よりも生きるが先と
入選　令和2年11月（ＮＨＫ誌上）

押さば引け引かば回れと習いたる
柔道の教えそのままに生きる
入選　令和3年1月（ＮＨＫ本部）

真夏日の土用の丑にウナギ食ぶ
万葉人もそうしたらしい
最終選考候補（「入選」相当）　令和3年3月（角川全国短歌賞）

（註三）選者名の省略
「佳作」以上の「秀作」「特選」には選者の氏名を付ける習慣があるが、本歌集では（失礼ながら）選者名を省略させていただいた。

CC BY-SA

第二部

再録

「ねこの昼寝」「人工知能（ＡＩ）」に収録の入選作

CC BY-SA

第36回子規顕彰全国短歌大会

愛媛県知事賞（特選）

AIがやがては人類亡ぼすと
予言して逝くホーキング博士

特選

戦友が父の最期を知らせたる
手紙が母の遺品に残る

CC BY-NC

子規短歌大会審査員長の秋葉四郎先生（斉藤茂吉記念館長、日本短歌クラブ前会長）

子規顕彰全国短歌大会（表彰式で挨拶：愛媛県松山市子規記念博物館ホール）
写真中央（立位）：審査員長の秋葉四郎氏、後方（座位）：右から永田和正、坂井修一、中川佐和子、片山雅仁の各審査委員と博物館館長の竹田美喜子氏

人類・社会

ＡＩがやがては人類亡(ほろ)ぼすと　予言して逝(ゆ)くホーキング博士

特選　平成30年10月(子規顕彰)

われわれは地球とともに回ってる　時速にすれば千数百キロ

入選　平成30年10月(子規顕彰)

人類は争い好む生物か　戦争たえぬ世界のどこかで

入選　平成28年9月全国大会(ＮＨＫ誌上)

神仏の宗派を越えしクリスマス　大和の国は平和なるかな

入選　平成29年3月全国大会(ＮＨＫ誌上)

水を買う時代が来るとは思わざり　西瓜冷やしし故郷(ふるさと)の井戸

入選　平成31年3月全国大会(子規顕彰)

パーティーの幹事をすれば必ずや　足を出すわが金銭感覚

入選　平成30年3月全国大会(ＮＨＫ本部)

戦中・戦後を生きる

戦友が父の最期(さいご)を知らせたる　手紙が母の遺品に残る

特選　平成30年10月(子規顕彰)

戦地より届きし父の手紙には　軍靴かじる日々記されており

佳作　平成29年10月(ＮＨＫ本部)

出征時「死んで還れ」と励まされ　戦地に散りし父の思いよ

佳作　平成30年3月(ＮＨＫ本部)

戦死せる父の墓前(ぼぜん)にひと山の　銀シャリ捧げ平和を祈る

入選　平成29年10月(ＮＨＫ本部)

CC BY-SA

戦争がそろりそろりとやってくる　誰もがみんな気づかぬうちに

入選　平成27年6月全国大会（ＮＨＫ 伊香保）

行商の荷を負い母は働きぬ　戦地に散りし父に代わりて

佳作　平成27年10月全国大会（ＮＨＫ 誌上）

さまざまな時を紡（つむ）いで五十年　妻の小言も賑（にぎ）わいのうち

入選　平成29年9月（ＮＨＫ 市川）

散歩道

道端に藪蚊（やぶか）の群れがうず巻いて　行く手をはばむ夕べの散歩

入選　平成30年11月（ＮＨＫ 本部）

戦国の敵味方なく祀りたる　金剛峰寺（こんごうぶじ）をわれは訪うたり

入選　平成30年9月（ＮＨＫ 市川）

誰にでも吠えかかりたる番犬が　暑さに負けたか顎出し眠る

入選　平成30年9月（ＮＨＫ 本部）

香水の名前で知ったミモザの木　黄花（きばな）どっさりわれを見下（みお）ろす

入選　平成30年7月（ＮＨＫ 郡上）

自販機の大きな音に振り向けば　汗ふく若衆ニッカボッカで

佳作　平成27年7月全国大会（ＮＨＫ 勝浦）

CC BY-SA

堀端の藪蚊の群れをくぐり抜け 項(うなじ)に残りし一匹を叩く

入選　平成27年7月全国大会（ＮＨＫ 勝浦）

夜遅く灯(あかり)をつけて壁を塗る　左官の鏝(こて)がキラリと光る

入選　平成28年9月全国大会（ＮＨＫ 温泉）

滑落(かつらく)のテトラポッドを這い上がる　三メートルをミミズのように

秀作　平成29年10月（ＮＨＫ 本部）

自然と風景

垣根より道に顔出す百合の花　手を添え愛(め)でれば恥ずかしげに揺れ

入選　平成30年7月（ＮＨＫ 郡上）

枯れ落ちた松葉拾えばどれもこれも　二本が今も連れ添うており

入選　平成30年6月（ＮＨＫ 伊香保）

ひたひたと寄せ来る波を受け止める　テトラポッドの音小気味良い

入選　平成27年6月（ＮＨＫ 本部）

ゆりかもめ急降下して魚とる　銛(もり)をグサリと突き刺すように

入選　平成29年5月（ＮＨＫ 伊香保）

晴れた日の人無き浜の白砂に　枯れ木で描く郷里(ふるさと)の富士

入選　平成30年7月（ＮＨＫ 郡上）

寝つかれぬわが顔かすめ一匹の　蚊が音高く過ぎてゆきたり

入選　平成29年1月（ＮＨＫ 本部）

日溜りにネコがのんびり昼寝する　師走正月どこ吹く風と

入選　平成29年1月（ＮＨＫ 本部）

電線に群れなしとまる雀たち　見つめる方向なぜかバラバラ

佳作　平成29年3月（ＮＨＫ 誌上）

天空に光かがやく日暈（ひがさ）こそ「日輪」の名にふさわしきかな

入選　平成28年9月（ＮＨＫ 和倉）

終の住処

たった今エレベーターを降りし女性（ひと）　ミモザの香（かおり）残して去りぬ

佳作　平成27年10月（ＮＨＫ 誌上）

妻の目を盗んで飲む酒うまい酒　夜中にこっそり楽しむひとり

入選　平成30年9月（ＮＨＫ 横浜市）

五十肩痛みに耐えて夜明け待つ　時計の針の動きの遅きよ

入選　平成30年6月（ＮＨＫ 伊香保）

あと何年生きられるのか分からぬが　今はとにかくお腹（なか）が空いた

入選　平成30年9月（ＮＨＫ 本部）

足許に落ちた薬（くすり）のカプセルよ　何処に消えたか煙のように

入選　平成30年3月（ＮＨＫ 本部）

真夜中の間違い電話は聞き馴れた　友の声なれ受話器を戻す

入選　平成29年9月（ＮＨＫ 本部）

手術待つ白内障のわが目には　かすみて見ゆる寒椿の花

入選　平成29年5月（ＮＨＫ 伊香保）

CC BY-NC

子供らよ

「オバカサン」言われてる子の愛らしさ　頬(ほほ)に飯(めし)つぶ二つもつけて　秀作　平成30年9月（ＮＨＫ市川）

楽しげに無邪気に遊ぶ子供らよ　日本の借金(しゃっきん)背負わせてゴメン　入選　平成30年9月（ＮＨＫ本部）

近隣の幼稚園より湧き上がる　歓声今日も老を励ます　入選　平成27年10月（ＮＨＫ誌上）

自転車の母の背を抱く幼子の　くりくり眼(まなこ)秋の風ふく　佳作　平成28年9月（ＮＨＫ誌上）

近頃は珍しくなりし浴衣(ゆかた)の娘(こ)　カタコトカタンと足音涼し　入選　平成28年12月（ＮＨＫ本部）

夕暮れに独りで遊ぶ幼子の　ブランコの音幽(かそ)けく聞こゆ　入選　平成29年7月（ＮＨＫ田辺）

CC BY

映像にみる

まなぶたを閉じれば浮かぶ原節子　大きな瞳にゆらめくひかり　入選　平成30年9月ＮＨＫ 市川）

堂々と土俵入りする白鵬の　足腰の動き自信に満ちて　入選　平成30年3月ＮＨＫ 本部）

もがきつつ釣り上げられしワカサギが　氷を枕に転（まろ）びておりぬ　入選　平成28年9月全国大会（和倉温泉）

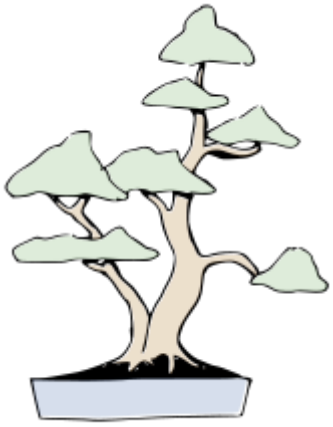
この魚どこを泳いでいたんだろう　お節（せち）の中のゴマメと目が合う　佳作　平成29年5月全国大会（伊香保）

CC BY-SA-NC

CC BY

第三部

自選短歌集



CC BY-SA

日常

短歌詠(よ)む日々の楽しさ教えられ　悩み忘れて時の過ぎ行く

風吹けばピューリピュララと聞こえくる　窓の隙間が笛となるらし

日溜りで昼寝むさぼるネコ一匹　大きく欠伸す新春(はる)のはじめに

シルクなら薄くて軽くて暖かい　われの肌着はこれに決めたり

孫たちの来ない盆は静なり　電話は賑やか代わる代わるに

自動車の運転席に流れるは　美空ひばりの真っ赤な太陽

若き日

学生の寮に出前のラーメン屋「まだか」の電話で作り始めき

新宿の西口下がるドヤ街の「つるかめ」なつかし今も営業

青春のいきいきとした想い出が　缶に詰められ令和に残る

若き日のアメリカ留学なつかしや　インドネシアの友とスラムに

若き日に野山を駆けし友逝けり　翅震わせてアブラゼミの鳴く

CC BY-SA

老いる

年寄れば脚がもつれて頭打ち　八針縫えど脳(なずき)は無傷

難聴のわれを悩ますセミ時雨(しぐれ)　夏が過ぎても居すわりており

たった今感銘深く聞きしこと　書き留めるまえに頭から消ゆ

久々に母の遺品をひらきみる　戦死し父の覚悟の手紙

年寄れば何かが起こるはずなのに　何も起こらぬ今を大事に

想い出・映像

底深いテトラポッドを滑落す　気が付けばまだ我は生きてる

その昔牛馬を駆って登り来し　古里の山ゴルフ場となる

たんたんと生きし女優の樹木希林　自然に生きて自然にかえる

家政婦をコミカルにしてシリアスに　見事に演じた市原悦子

柵内で討論している人間を　じっと見ているサファリのインパラ

平成に使いし手帳三十冊　これがわが身の生きたるあかし

西安の五十余種なる水餃子　円卓まわりて客をもてなす

ネコジャラシ

月の世に吠える野犬の声高し　うちなる野生に目覚めおらんか

猛(たけ)くして空地に広がるネコジャラシ　月の光に白くかがやく

紀国(きのくに)の山々つらねる和泉嶺(いずみね)の　稜線くっきり冬空を斬る

夕暮れの神社の裏の草むらに　ヒグラシの声かそけく響く

岸壁に釣り上げられし太刀魚(たちうお)が　死んだふりする夏の夕暮れ

CC BY-SA

世の中・時代

惜しまれて平成の世は去り行かん　わが五十年は昭和に残る

今の世に「頭から腐る鯛」のごと　森友・加計が異臭を放つ

ＡＩがやがては人智を超越し　われらに指示をするかも知れぬ

ジプシーとクルドとロヒンギャ難民を　救う方法いずこにありや

平成の最後の桜を見にゆこう　明日の桜は令和の桜

温暖化防止を無視する人類に　猛省うながす激甚災害

アマゾンは多量のＣＯ２を吸い込みて　温暖化から守りいるなり

スポーツ・研究

ゴルフ後にひと風呂あびて飲むビール　老後の楽しさここに極まる

ボクサーが放つパンチの鋭さよ　狙うは互いの鼻のてっぺん

筋肉は使えど減らず増えてゆく友は　これを「貯筋」と名づく

研究が病み付きになるその訳は　新たな事実と出会う喜び

押さば引け引いて回れと習いたる　柔道の教えそのままに生きる

研究のグラフの線はカラスグチ　文字を書くのはロットリングで

CC BY-SA

鞭の会（時に「無恥の会」）のメンバー

CC BY-SA-NC

第四部

人生いろいろ

～短歌で綴る～

CC BY-SA

紫華鬘（ムラサキケマン）は金子先生の誕生日３月４日の誕生花で、花言葉は「喜び」「あなたの助けになる」です。
筒状の花を四方八方にたくさん咲かせるのが特徴と言われています。

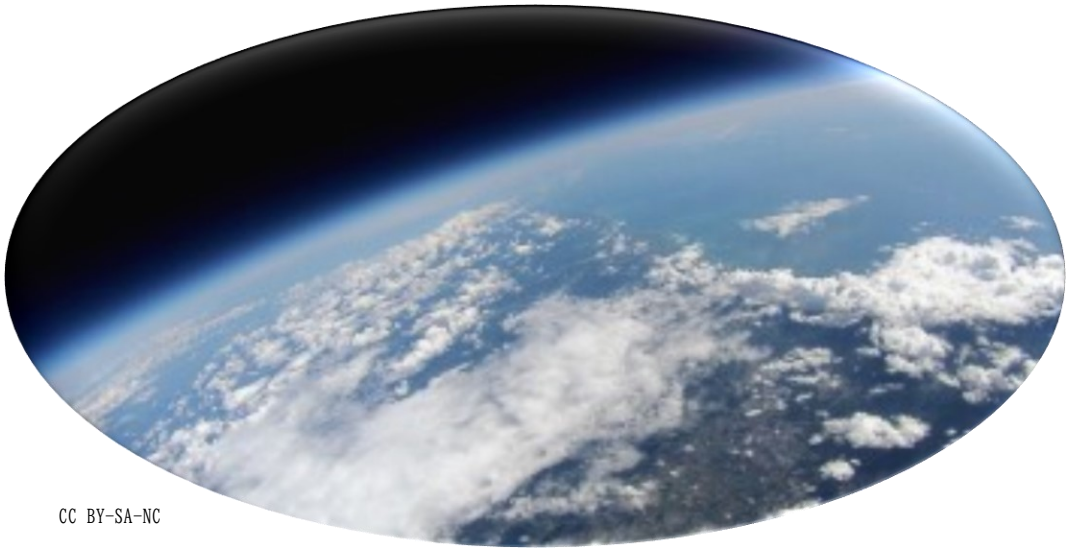
自分史「わたしの戦後七十年」（NHK出版2015）より抜粋

食糧難われ肋膜炎をわずらいて
一年遅れの国民学校
終戦後母は行商はじめたり
幼子三人育てるために
警察に背負うヤミ米とがめられ
戦死し夫も巡査と言いし母
高校はわれに縁なきものと決め
もっぱら探す職人への道
上京し宿なきわれを救いたる
先輩いまも健在うれし
大学の最初の二か月職探し
授業よりも生きるが先と

CC BY-SA

ダメモトの大学院に合格し
貧乏暮らしの新たな幕開く
一年中同じネクタイしめ続け
それを異常と思わぬ若き日
シスコからレキシントンへ三昼夜
バスにて東へひた向いし
アメリカで暮らしはじめしスラム街
インドネシアの友と仲良く
留学のケンタッキー大学医学部の
夜半の掃除は黒人ばかり
柔道の愛弟子二人ベトナムで
戦死したとの訃報に接す
バス移動カリフォルニア着時は無一文
百ドル借りて生活開始

CC BY-SA



CC BY-SA-NC

宇宙にて船外活動成功し
友の偉業が世界にとどろく
日本にも春が来たが帰らぬか
帰國を促すわが師の手紙
枯葉舞うミラノの秋は寒々と
郷愁誘う夕暮れどきに
海と空かけ回りし若き日は
今や昔の遠き想い出
極北のフィンランドに夏きたる
芝生にたむろすヌードの学生
喜寿迎え思えば何度か死んだはず
医学の進歩に救われて今

CC BY-SA-NC

金子のんき節

気にしない気にしだしたら切りが無い
今日は今日なり明日は明日なり
今日中に済まさなくても良いことは
明日に延ばそう明日あるならば
今日という一日(ひとひ)を無事に過ごせたら
明るい日と書く明日があるさ
世の中に理不尽なことは多けれど
見ようによっては丸も三角
何事もそれを仕事とするならば
楽しくもあり楽しくもなし
まなぶたを閉じて一日(いちにち)を振り返る
何もなかった特別なことは

キッチンに何しに来たのと問われても
思い出せないハナイチモンメ

年金で暮らし始めて十二年
ほどほどの財にてそこそこに生きる

この頃は歌がちっとも浮かばない
牧水読んでも啄木よんでも

八十路（やそじ）まで生きてるなんて何とまあ
悪運つよき人生なんだ

「ダメモトだ。恐れず前に進みなさい」
恩師の教え今も生きてる

メモしたいときに限って手帳なく
箸袋（はしぶくろ）に書き財布にしまう

「待たせる」と「待ちくたびれる」はどちらもが
恋だと歌う松山千夏

今日もまたとんかつ食べて活入れて
ヨッシャと向かう短歌教室

CC BY-SA

Another my life

あとがき

「最近は短歌にどっぷり漬かっている」と言うと、たいがい「洒落た趣味だね」とか「テレビで見ているが、難しいだろう」などの反応が返ってくる。前者はともかく後者の反応は誤りで、私の趣味は（テレビの俳句とは違う）「短歌」である。

短歌は万葉集以来の古い歴史をもち、平安貴族には「和歌」として親しまれた。和歌には長歌、旋頭歌などが含まれるが、短歌以外が廃れたため〈和歌＝短歌〉と解されるようになったらしい。

短歌では（俳句と違って）季語が不要なため四季にこだわる必要がなく、生活や社会現象万般を対象とすることが出来る。文字数も31字（みそひと文字とも言う）と俳句より多いので、意図することが表現しやすい。私が短歌をこよなく愛する理由はもう一つ、現代短歌が口語で表現できる（文語を混ぜてもよい）ことにある。

ただ困ったことに、短歌には理数系のようなハッキリした評価基準がない。そこで私は作品を全国短歌大会に投稿し、もっぱらその成績に評価を委ねてきた。

このたび100首入選の記念の歌集を上梓できたのは、他でもない藤田英和氏の卓越した企画・編集によるもので、彼の支援なくして本歌集はあり得なかった。心からの謝意を表する次第である。

令和三年五月吉日

金子公宥

CC BY-SA-NC

モッコウバラ（木香薔薇）は『優しく、嬉しくなる』という花言葉で表現され、暗いイメージの花言葉はありません。「素朴な美」「あなたにふさわしい人」「幼いころの幸せな時間」などの花言葉もあります。
大切な人にプレゼントにするのにもおすすめの花とも言われています。

短歌詠人：金子公宥（かねこまさひろ）
昭和 13 年 3 月 4 日生、静岡県伊豆の国市 （韮山） 出身
大阪体育大学名誉教授、教育学博士（東京大学）
日本バイオメカニクス学会会長
国際体力研究学会（ICPFR）副会長 ほか
「スポーツエネルギー学序説」（杏林書院）ほか

〒597-0021 大阪府貝塚市小瀬 527-2-602
Tel:072-433-2311 E-mail: mkaneko@rinku.zaq.ne.jp

企画・編集：藤田英和（ふじたひでかず）
昭和 25 年 9 月 22 日生、大阪府出身
昭和 48 年 大阪体育大学卒業
NPO 法人 みんなのスポーツ協会初代代表

連絡先：wqmw18757@leto.eonet.ne.jp（藤田英和）

NPO 法人 みんなのスポーツ協会設立 15 周年記念式典
（2018 年 2 月 3 日 於・大阪ガーデンパレス）にて

（註）個人画像以外は作者不明のクリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CC BY など：画像下に記載）
のもとに掲載を許諾されています。（表紙は CC BY-SA-NC、裏表紙は CC BY-ND）
また、その他の画像は非営利目的での再使用が許可されたものです。

令和三年五月

特定非営利活動法人　みんなのスポーツ協会